

## 第六十回 桐の花賞

椎<sup>しい</sup>名<sup>な</sup>恵<sup>え</sup>理<sup>り</sup>（東京）

右に贈ることを決定した

令和五年五月

### コスモス短歌会

#### 椎名恵理の作品について

一読で覚えてしまった椎名さんの歌がある。「月食の夜 茫々と紅き月 ルクセンブルクで笑う人影」——二〇一八年のコスモス五月号の作品で、際立つ個性が忘れがたい。

椎名恵理さんは一九八六年、茨城生まれ。学生時代に短歌と出会って卒業を機にコスモスに入会し、目下、COCON会員としても活躍中だ。また、日本語学校の教師の職を経て、大学院へ通うなど、向学心を持つ生き方も頼もしい人である。

○セキユリティーカードを掲げたまま帰りイヤフォンしたままお風呂に入る

○アボカドとささみのサンドウィッチを片手で食べる食べたら帰る

○わたくしは肘で抽斗しめる人もらったレタスを腐らせる人  
行為だけを淡々と詠っているかに見える三首だ。だが鮮明な描写と、構文の固有のリズムにハツとする。仕事の疲れを詠んでも、生活の疲れを詠んでも椎名さんの歌は、美学的なデッサンの技法を心得て、モダンである。

○入国を二年待ちたる留学生 さざんかの坂を来月あるく

○遠く遠く遠くの星にも初雪がふつたらしいとフェイクニュース来

○白は悪、黒は真実、この秋に黒いブラウス三枚を買う

○高三の担任なれば三月の夫かごいっばい花束もらう

歌とは眼力をつかうものだが、椎名さんの眼力はつよい。一首目  
が描くのは、来月の坂、来月の留学生だ。未来へ届く目ぢからなのだ。二首目は一種シニールである。遠い星の初雪を消すフェイクのニュース。三首目は、まさに詩眼の歌だろう。白の悪、黒の真実を見ぬいてしまう。でも四首目の目は優しく、三月のかごいっばいの花束を、若い夫婦のシンボルにする。

○地球上もつとも空気に近くなる場所なり夜の動物園は

椎名さんの心理の底ひの見えるような歌である。今、作者が真に欲しいものこそ空気であろう。やすらぐ空気。その欠乏感を、夜の動物園への希求で詠むのが新鮮だ。内面のかげりを無理に押し隠さず、精神活動へ転じる心のつよさを作者は持っている。この力でこれからも、自身の世界を展いてゆくだらう。椎名恵理さんの力量を信じたい。

《選考過程》

選者団に推薦を求め、高野・影山・桑原・狩野・小島・木畑・大松・田宮・津金・小山・福士・藤野・風間・田中・橘・水上・比呂木・原賀・水上美・大野・松尾の各氏から

回答があった。今回の被推薦者は計7名であった。

一位3点、二位2点、三位1点として集計

した結果、椎名恵理39点、清水佑太郎25点、

富永恵美子25点、中村恵21点、磯川朋美9点、

尾花照子4点、梅田陽介3点となった。この数字をもとに二月十八日、編集部で検討し、得点の最も多い椎名恵理の受賞が決定した。

## 作品抄

セキユリティーカードを掲げたまま帰りイヤフォンしたままお風呂に入る

かさかさに毛羽立つ心撫でつけてホットココアのシャワー浴びたい

白は悪、黒は真実、この秋に黒いブラウス三枚を買う

告白をした人された人会しにぎやかな成人式は遠くに

遠く遠く遠くの星にも初雪がふつたらしいとフェイクニュース来

チョコケーキ作るため板チョコを買い板チョコのまま三枚を食む

雪が降る降る降る言われて降らぬ朝、基礎体温計くわえ二度寝す

母の家にカルトナージュの作品は増えて絵本のような本棚

高三の担任なれば三月の夫かごいっばい花束もらう

かちかちと動く秒針夕方に許せないこと一つ増えたり

左手に葱の入った紙袋さげて右手で手をつなぐ人

アボカドとささみのサンドウィッチを片手で食べる食べたたら帰る

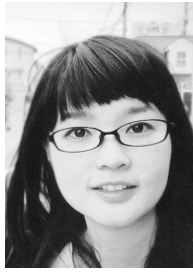
経理部でいつも残業する人の名前を知らずにすぎる三月

地球上もつとも空気に近くなる場所なり夜の動物園は

哺乳瓶の温度を確かめいる我は乳を与える人でなければ

敵ひとりも作らぬ色をえらばれて和菓子のだるまの真緒やさしい

わたくしは肘で抽斗しめる人もらったレタスを腐らせる人



---

---

残業を切り上げられない金曜は口いっぱい詰めるマシユマロ  
日曜はすぐに噛みつく怒りん坊ねずみになって会社に向かう  
路地裏の草木しんしん育ちゆき捨てられた招き猫を包めり  
啓発本の棚を見上げる青年にわたしとおんなじ首すじの痣  
いつみても深夜の電話ボックスに誰かいて誰かと話してる  
くったりとして洗濯を待つシャツも下着もタオルも私を見てる  
一杯の紅茶とカップ麺分の水道水をケトルに入れる  
もう友じゃない人の詩に住んでる雨を知らないゾウアメフラシ  
台風は明けクレパスの藍の空ツグミは大きくつばさ広げる  
左利きの「風」のはらいは窮屈に思えて秋の窓すこし開ける  
観覧車がみどりに光る時にだけ息が吸えるっていうゲームする  
ビリヤードチョークの塗り方個性ありマックポテトの食べ方よりも  
教案の束の眠れる引き出しもパソコンも本棚も春のまま

### 感想

青山学院女子短期大学の一年目に、何気なく履修した「創作短歌」の授業がきっかけでした。卒業後も短歌を続けたいがどうすれば良いかと、高野公彦先生の研究室でコスモス入会の葉をいただきました。短歌に出会ってから十五年あまり。一時は短歌を読まず、作らず、完全に離れてしまったこともありましたが。それでもこの休止期間により、一層結社の皆さんの温かさで心地よい短歌のリズムが、私の世界

には必要なだとわかりました。  
これまでに、私の作品に貴重なご指導をくださった選者の方々、先輩方、またともに学ぶ仲間、皆様に心より感謝申し上げます。

### 略歴

一九八六年 茨城県生まれ  
二〇〇六年 コスモス短歌会入会  
二〇一二年 退会  
二〇一六年 再入会

## 第六十回 桐の花賞選考資料抜粋

A・

### 1位 椎名 恵理

母や祖母、夫など家族の歌、犬の歌、仕事の歌など題材が豊富で、型にはまらない社会詠にも個性が感じられる。

### 2位 清水佑太郎

エネルギッシュな教師の歌が魅力。妻の歌や、飼い犬の歌など昨年からさらに表現を磨いている。

### 3位 中村 恵

授けられなかった命のことや、己の辛い部分にも目を背けず、言葉にして昇華する。歌に奥行きが出てきた。

B・

### 1位 椎名 恵里

自身の仕事に関わる歌が多いが、描写の歌を詠むのではなく、詩的発想にあふれた歌を詠んでいる。歌の広がりもあって、さらに今後が楽しみである。

### 2位 清水佑太郎

教員生活を題材としている歌が多いが、覚めた眼差しで学校や生徒を詠んでいる点が、新鮮である。当然批評性もあって、その点も魅力である。

### 3位 冨永恵美子

口語で自由自在に詠んでいる。発想が豊かで、意外性のある歌も多く、読者としては、次はどんな歌を詠むのか期待させる魅力がある。

C・

### 1位 椎名 恵理

椎名さんの歌は、航海中の船のようだ。生活を詠っても、社会を詠っても、どこか旅人の眼を感じさせる。この詩眼が作者独自の歌を生むのだろう。

### 2位 清水佑太郎

迷いのないシンプルな言葉をびたりと五句に据えて、ダイナミックな作品質だ。教師の歌に

本年度桐の花賞の選考のもととなった推薦文と作品の一部を、ここに掲載する。推薦作品抄は、推薦者の挙げた作品の中から編集部が適宜抄出したが、推薦の多い作品を初めのほうに掲載している。

## 推薦作品抄

### 椎名 恵理 \*

経理部でいつも残業する人の名前を知らずにすぎる三月  
横断歩道のヨークシャーテリアもいるドラジエのような肉球でゆく  
敵ひとりも作らぬ色をえらばれて和菓子のだるまの真緒やさしい  
左利きの「風」のはらひは窮屈に思えて秋の窓すこし開ける  
チョコケーキ作るため板チョコを買って板チョコのまま三枚を食む  
左手に葱の入った紙袋さげて右手で手をつなぐ人

朝々に白湯をかかさず飲む人のクリームパンのような平仮名  
雪が降る降る降る言われて降らぬ朝 基礎体温計くわえ二度寝す  
残業を切り上げられない金曜は口いっぱいに詰めるマシユマロ  
セキユリティーカードぶら下げ夜ふかしする放置自転車はさばさ並ぶ  
入国を二年待ちたる留学生 さざんかの坂を来月あるく  
地球上もつとも空気に近くなる場所なり夜の動物園は  
白は悪、黒は真実、この秋に黒いブラウス三枚を買う

母の家に祖母のいろいろ増えゆけり入れ歯消毒液、杖、オムツ  
日曜はすぐに噛みつく怒りん坊ねずみになって会社に向かう

魅力があるが、現場からの生の声を、そのまま歌にしている。

3位 富永恵美子

知と情のバランスが良く、主題を伝える能力が高い。時に、ストレートな歌を詠うが、パンチあり、チャームありと詠い分けるセンスも持っている。

D・

1位 椎名 恵理

何気ない日常を、的確な比喻や描写によって詩的に描きだす技に優れている。対象期間に限らず瑞々しい作品を長く発表している。

2位 富永恵美子

自身と他者との関係を省察して感覚的に表現する作品を生む作者である。歌として提示されることで静かに納得させられる作品が魅力的である。

3位 清水佑太郎

生活の歌、仕事の歌に優れている。作者の思いを伝える具体がしっかりしているところが魅力であり、印象的である。

E・

1位 椎名 恵理

個性的な捉え方は、作者の置かれている環境や境遇と真摯に向き合って逃げることをしないひたすらな生活態度からくるも

のであろう。

2位 中村 恵

身辺の素材を持ち前の温かな目で捉え、自分を鼓舞するような作品に仕上げる。読者の心にもやさしく伝わる。夫への穏やかな相聞も魅力がある。

3位 清水佑太郎

人間や社会へ問いかけながら、前向きに生きる教師の日常を表現している。本音の部分には独自のものがある。新鮮な職場詠を見せてくれている。

F・

1位 清水佑太郎

激務をこなす教師の日常が、エネルギーに満ちた言葉で活写される。生徒たちと同じ目線で行動する作者が彷彿として好もしく、若しい詠みぶりが魅力。

2位 中村 恵

日常の些細な幸福を、詩情ゆたかに掬い上げる。リズムが柔らかく他者へのまなざしも優しい。何かを乗り越えたような落ち着きが出てきた。

3位 富永恵美子

社会への違和、疑義を的確にキヤッチして鋭い。同時にみずみずしい相聞歌もあって、感性ゆたかな期待の新人。

かさかさに毛羽立つ心撫でつけてホットココアのシャワー浴びたいわたくしは肘で抽斗しめる人もらったレタスを腐らせる人  
イトインのシール貼られてあきつと外に出られる紙コップS

清水佑太郎 \*

答案の束を眺める二十二時三百枚の数の暴力

夏過ぎて気温が下がりゆくことにメランコリーの影が濃くなる  
冬の夜は犬をベッドに乗せておき温まつたらわしが寝るのだ

休日が減れば減るほど増えるもの口内炎と睡眠負債  
スタップとしての卒業式だから 涙は出ない汗は流れる

雨に濡れ体と空気の境界がわたしを包み家に届ける  
高一の夏の三者面談は楽しい時間 夢を語れる

ヒーローは遅れてやってくるものと遅刻の生徒のワイシャツの白  
履歴書の経歴欄の行足りず回り道した年数が空く

採点と添削終えて水を飲む今午前四時の音のない部屋  
宿題をひとつも終わらせられぬまま三十六の夏が終わった

繰り返す日々ゆつくりとかりかりと残りの命掠め取られる  
さあみなさん、テスト範囲はここまでです 拍手が起ころ七限最中

採点が終わった僕を褒めるのはオヤツが欲しい僕の犬だけ  
登校の生徒の検温しておりぬ三人連続三十四度

富永恵美子 \*

おおそうじ、おそうじ、そうじそれぞれに掃除の程度が違うと幼  
キティちゃんの切手八枚貼られたるわたくし宛ての手紙は苦情  
眠れずに画面さまよう指先が夜ごと行き着くグレゴリオ聖歌  
ホームレスと呼んだそのとき乱暴にすべてを奪ってしまったような  
路線図のような手相の荻窪のあたりにはいちはん濃い過去がある

## 1位 清水佑太郎

妻と暮らす三十代の教員。夜中に仕事をするなど激務のようだ。そうした日々の思いを、飾らず気負わずストレートに表現していて、調べに勢いがある。

## 2位 富永恵美子

身近なところからワープして詩的な世界を開いてみせる。思索的な面があり、世界にも目が向いている。幼児の愛らしさを捉えた歌も印象に残った。

## 3位 中村 恵

難病ということだが、親族や友人の歌が多く、歌柄は明るくパワフルで屈託がない。食べ物の歌が多かった。時に、子のいないかなしみがにじむ。

## 1位 清水佑太郎

歌を柔らかくするための口語の使いどころを心得ている。愛犬の動作を見逃さず、楽しく切り取る。ウイットを交えた職場詠に力を発揮する。

## 2位 富永恵美子

リフレインを活用し、リズム感ある一首に仕上げる。同音の言葉を知的に使い分ける感性が面白い。歌に批判の目を巧みに内在させる力がある。

## 3位 尾花 照子

思い出と現実をつなげる素材を見つめるのが巧だ。暮らしの中の一コマを印象的に切り取る。素材の組み合わせに冴えを見せる。聴覚も鋭敏だ。

## 1位 富永恵美子

対象を見つめ捉える時の発想が、じつにユニークでまた楽しい。新しい作品を読みたいと、読み手に期待させる詩心を持っている。

## 2位 中村 恵

あわただしい日常の中でおりおり立ち止まり、一つ一つの出来事を丹念にそしてほのかなウイットをまじえて歌い留めている。

## 3位 清水佑太郎

中高の教員としての淡々とした日々を、いくぶんシニカルな視点から歌う。プライベートでは愛犬に寄せる思いも伝わってくる。

## 1位 富永恵美子

やや屈託のあるトーンで、独自の世界観のある作品を詠む。イメージ喚起力が高く、言葉の持つ真意を大切にしている点に魅力を感じた。

二年ぶりの姪は三歳 もういちど始める初めましての関係  
ほたる祭りの蛸はほたるの生きられぬ川に放たれ死んでいったよ  
カーテンの襷の秩序にそっくりな君の寝息に朝がちかづく  
度の強いわれの眼鏡はわれにだけやさしいそれがすこしかなしい  
正直に告白すると眠くなるあなたの海とつながってゆく  
風と手をつないで凧をあげる人 こころの深くを見つめている春  
つぎつぎとくしゃみが咲いたすずらんのようになくしゃみが春の合図で  
電車、バス、タクシーみんなだめな夜 ならば歩いてやろうじゃないの  
天道虫を保湿ティッシュの雲にのせ窓から逃がす 外は一月  
八歳の甥には甥の日本語があつて教わる小二の文化

## 中村 恵\*

わたくしのしょうがつくだに友の子の弁当箱にすこしおさまる  
雨降りに傘さしくれる夫のいて後半生にピチカートあり  
垣根越しに光がとどく窓辺にてケトル鳴るまで背すじを伸ばす  
命日はなく受精卵が消えた日はもう三年まえ雪の降るころ  
送らないつもりで文字を打ちまくり炎のころスマホにしまっ  
ん、と言いつつコップつきだす七歳に察しが悪い大人のわたし  
教わったたこ焼きの味伝えゆく友からわたしたしから友  
のり塩がついた左手そのままに清き右手はマウスに触れる  
頭から布団をかぶる 話しても話さなくても傷ついてきた  
図書館の裏のポプラの木の下をおじさんが掃く午後四時が好き  
玄關で夫の掃りをともに待つ半俵の米ゆきがふりおり  
痛みいるからだ横たえ黄金の木乃伊のように正しくねむる  
しみ消しに来た病院で顔の凶に値段こまかく書かれるカルテ

## 磯川 朋美

2位 椎名 恵理

詠む素材を日常の中に見つけることがうまい人。軽やかなリズムで、詩に昇華する力量は見事。

3位 清水佑太郎

教師としての日々が歌によって印象的にズームアップされていて面白い。人生経験の豊かさも感じさせる作品も多く、今後が楽しみな作者。

1位 中村 恵

さりげない日常をドラマに仕立てるような、メリハリのきいた作品に惹かれた。歌の材料をキヤッチする感性がすばらしい。

2位 雷永恵美子

世の中を斜めから見ているような視線が、シニールでシニカル。それでいて、真実をまっすぐに差し出す歌が印象的である。

3位 清水佑太郎

職業は教師だろう。生徒や職場の歌がいきいきと活写されている。数字を使ったり、口語で表現したり、工夫がある。

1位 中村 恵

日常生活の喜び哀しみを感じ取り、繊細に詠む。ユーモアのセンスもあり、読んでいて楽しい。急激に力を付けている。

2位 雷永恵美子

きっぱりとした詠みぶりと言語がよく合っている。軽い詠み口で、心情や社会問題を深く鋭く詠む。素材が豊かだ。

3位 清水佑太郎

勢いのある職場詠に注目した。漢語の使い方が巧く、端的に情景や感情を詠む。犬を詠んだ歌も愛情があり自然体で良い。

1位 中村 恵

友人や夫への眼差しはつねに温かく、病に対する不安の中、自己に向ける視線の冷静さに強さが窺える。

2位 椎名 恵理

人を詠んでも、物を詠んでも独自の発見があり自己仮託も上手く、歌柄に幅があるところが魅力。

3位 清水佑太郎

教師としての日常の疲弊感を多く詠みながらも生徒に向ける眼差しには愛があり、教師としての矜持が伝わる。



閉ざされた楽園に舞ふ粉雪をスノードームに飽かず眺める

「プーチンの車」と言ひて四歳は戦車を長く並べて遊ぶ

風鈴が聞きたいからとクローラーを拒む子と寝る手団扇の夜

伸びをして睡をすいと上げてから今日食ふ魚を買ひに出かける

玄関の鍵をなくして抜け落ちた記憶より鍵の心配をする

玄関が開かないならと二、三カ所入れる場所の浮かぶ我が家

二階から帰宅の我に番の猫寝たまま尻尾をぱたりとひとつ

交番で「普通の顔」を意識して警察官の到着を待つ

水揚げのバケツに立てる百本の薔薇は匂へど蝶は止まらず

尾花 照子\*

シーズーは吠え立てられて走り出すくらいむぼんのような顔して

冬空はほころびやすくちはやぶる神は六花を指先で編む

木の闇をほぐすメジロのさえずりと見れば山茶の香の雨はふる

夕月夜街に大鷹あらわれて椋が飛びたつ水泡のように

筒をもつ海老茶袴へ風吹きて花かんざしは春の陽かえす

一歳の少女を父親いだきたり葦の花束抱えるように

夕暮れの花の小道を過ぎゆきぬジエイブルのギターケースは

梅田 陽介

翹室を出づれば玲瓏たる月を掲げ波打つ蔵の瓦は

自己愛の無き半生を思ふとき梅ふと香る我が姓の花

男系の名字を継がす「姓」はしかし「女」が「生」きると書くではないか

如月の蔵に喉をふるはせる搾つたばかりの酒を利くとき

人生を建ててが如く二世帯の家を建てたり不惑の年に